

沖縄県ミニバスケットボール連盟 コミッショナーマニュアル

1. プレイヤーズファースト

子ども、指導者、チームの成長のために

※違反行為を取り締まることが目的ではない。

2. 試合の運営（コミッショナー席は、基本ベンチの反対側とする）

①審判→両チーム監督→TO の子どもたちの順に挨拶に行く。

TO の子どもたちへは、ブザーを鳴らす可能性があることを伝えておく。

②ゲーム中は立って両チームのマンツーマンを監督・管理する。

警告（赤旗）をした際には、コミッショナーシートに記録を残す。

③各クォーター終了時には、審判と連携する。（必要に応じて）

④ゲーム終了時には、審判、両チーム監督、TO に挨拶をする。

3. 基準規則・補足

（1）マッチアップ

- ・誰にマッチアップしているか明確でなければならない。（目・指さし・言葉など）
- ・首振りだけでボールマンとマッチアップしている相手を確認することはマッチアップとは言えない。（2人を同時に捉えていない状態）
- ・マッチアップの基準は、マッチアップエリア内では常に適用される。

（2）プレスディフェンス

- ・マッチアップの基準に準ずる。
- ・ボールマンへのトラップは許されるが、ローテーション後のピックアップを確実に行う。
- ・マッチアップエリア以外においても、スローインするオフェンスにマッチアップする。

（3）オンボールディフェンス

- ・距離は最大1.5m（シュートチェックができ、ドライブを止められる距離）

（4）オフボールディフェンス

- ・常にマッチアップしている相手が見えるか、感じられるように移動する。
- ・フェイスガードで守る場合以外は、ボールがパスやドリブルで動くのと共に、ボールマンとマッチアップしている相手が見えるポジションに動かなくてはならない。
- ・ボールを持っていないオフェンスプレイヤーをトラップすることは禁止する。
- ・スクリーンにかかっていない状況でのスイッチは禁止する。
- ・ヘルプサイドにいるディフェンス側プレイヤーは、ヘルプ・トラップに行く場合を除いて、最低限片足はヘルプサイドに置かなくてはならない。

（5）ヘルプローテーション

- ・ボールマンディフェンスが抜かれた場合、リングへ向かうペネトレーションに対しては、ヘルプが許される。
- ・オフボールのオフェンスがリングへカットすることをヘルプすることも許される。
- ・ヘルプディフェンス後に、オンボールのプレイヤーに対してトラップになっても構わない。
- ・ヘルプディフェンス（ローテーション）後は直ちにマッチアップしなければならない。

(6) スイッチ

- ・スクリーン,トラップ後,ヘルプ後,ラン&ジャンプの状況で許される。
- ・スイッチした場合,直ちに新しいオフェンスにマッチアップする。

(7) トラップ (ボールをスティールできる距離 (50cm) における数的優位な守り方)

- ・オンボールのプレイヤーのみに許される。
- ・トラップ後は直ちにマッチアップを明確にしなければならない。(ローテーション可)
- ・トラップを仕掛けられる場面は,
 - ①ドリブルが行われている時,またはドリブルが終わった時
 - ②パスが空中にある間に移動できる距離で,パスを受けた瞬間にトラップを成立させることができる時
 - ③移動が容易に行える距離にある時
(自分のマークマンとボールマンの距離の目安: 2~3m)

(8) マッチアップのオフェンスが動かないケース

- ・オフェンス側に問題があることもある。
(アイソレーション,ヘルプサイドのオフェンスが何もしない時)

(9) スローイン時のボールマンディフェンスの視野

- ・オフェンスに背を向けてマークマンを見ないことは禁止する。

(10) オールコートディフェンスの対応

- ・ヘルプサイドディフェンスは,距離における規定はないが,ミドルラインとの位置関係は基準規則通り。
- ・2線や3線のディフェンスがボールにしか視野を置いていない状況は禁止する。

4. コミッショナーの運営

- ・違反行為が生じた際に「黄色 (注意)」の旗を振り,そのチームのベンチを指し,コーチ選手の対応を見る。
- ・改善しない場合は,「赤色 (警告)」の旗を揚げ,審判に合図する。審判が気づかない場合は,ゲームクロックが止まった際にブザーを鳴らしてもよい。審判は両チームのコーチを TO 席の前に招き,コミッショナーは内容を簡潔に説明する。必要であれば,コーチは選手に説明をする。1 回目は,審判により,コーチに警告が与えられる。同じチームの2 回目以降の違反行為に対しては,1 回目と同様の流れの後に,審判によりコーチにテクニカル・ファールが与えられる。
- ・各クォーター終了間際に違反行為が生じ,コミッショナーの旗 (赤色) が揚がり,そのままゲームクロックが止まらずに各クォーターが終了した場合,その警告および罰則は全て有効とする。
- ・悪質な違反行為については,「黄色 (注意)」の旗を振らずに,「赤色 (警告)」の旗を揚げることも可とする(明らかなゾーンプレス,試合終了間際など大きく局面が変わる場合)
- ・技術不足,体力不足により故意でない違反行為が発生する可能性もあるため,よく見極める必要がある。違反が目立つ場合は,クォーター間やハーフタイム時に必要に応じてコーチ・審判とコミュニケーションを図り,円滑に試合を進めるよう努める。

※今回作成したマニュアルは,夏季県大会時における,牧野氏の講習会の内容を盛り込んで作成しました。当面の間,各地区・ブロックはこのマニュアルを基本にコミッショナーの取り組みマンツーマンの推進をお願いします。
コミッショナー委員長: 久高